

第 70 回横須賀市文化振興審議会 書面会議概要

日 時：令和 2 年（2020 年）12 月 25 日（金）

出席者：吉田 彩子 委員長、秋岡委員、石川委員、崎山委員、西堀委員、
蛭田委員、藤井委員、山本委員、吉田秀樹委員、若江委員
事務局：高木課長、赤城主査、宇野主任

次第 1 委員の紹介、委員長及び委員長職務代理者の選出について

委 員：賛成します。

次第 2 市民文化資産新規規定（浦賀奉行所跡）の諮問について

委 員：承諾します。

- ・些末なことながら、調書 10 行目「平成 29 年（2018 年）」は西暦・和暦が不一致ではないでしょうか。2017 年だと思えますので、確認をお願いします。

- ・長崎奉行所跡のような立派な演出はしないまでも、歴史教育の

場として、また観光資源として活用できるといいと思います。

委員：承諾します。
現況、空地なので、日本遺産バーチャルのようにスマホアプリなどで、現地でVRが楽しめるようになると思います。

委員：承諾します。
調書内容も大変納得できるものでした。又、推薦者の方の専門性から考え、指定に値すると判断いたします。市民、対外的アピールができるようにと願っております。

委員：承諾します。
横須賀市の文化資産は日本の文化資産であり、市の努力に感謝いたしております。

委員：承諾します。
結構なことです。

委員：承諾します。
大変有意義な企画と思います。

委員：承諾します。

委員：承諾します。
大変興味深い史跡であると思います。往事の姿が良くわかるような展示物があれば、なお良いかと思えます。

委員：承諾します。
奉行所跡はかなり広い土地です。今後どのように活用するのか、例えば、住宅にするのかなど、検討状況はどうなのでしょう。あまりに広すぎて途方にくれそうです。市の土地・構造物となった浦賀ドックとあわせて浦賀港全体の中で考えるべきだと思います。

委員：承諾します。
浦賀奉行所の遺構から、外塀などの復原ができると良いと願っています。

次第3 令和元年度文化振興基本計画進行管理結果報告書（案）について

委員：令和元年度「結果報告書」の中の令和2年度「予定」の欄に、令和2年度「実績」にあたる内容がかなり書き込まれていますが、今回のこの書類における「予定」が「いつの時点での予定」なのかよくわかりません。例えば、資料3（25頁）のオーケストラ鑑賞会の「令和2年度予定」欄の記述を、結局、延期なのか中止なのか、そもそもそれはいつ決まったのか、それは今回の審議議題の令和元年度に関する検討対象なのかがよくわかりません。新型コロナについては、令和元年度からすでに事業に影響が出ましたので、令和元年度における対応が見えやすい形で、まず検討する必要がないでしょうか。また、資料3の24頁、途中に「(2)生涯学習における情報を提供します」の見出しが必要ではないでしょうか、26頁の「児童生徒書写一」の令和2年度予定に令和元年度の日程が入っているなどです。

委員：60頁「横須賀音楽・夢プロジェクト」の推進を読んでいると思いますが、オーディションの様子のyoutube配信や楽曲の世界配信を行う場合、その視聴回数などは、実績として記してはどうか。今後、コロナ禍において、イベントのオンライン化が進むことを考えると、来場者ではなくアクセス数の数字が方向性や課題の判断のひとつになっていくのではと思います。

委員：①「はぐくむ」…イベント鑑賞が感染症予防対策の為、中止になることが多く、次世代への承継が心配です。オンラインも必要ですが、リアルな場は、別の意義、有益さがあります。少人数、回数増などを視野に入れて頂きたいと存じます。

②イベント（講座）参加者の増加、維持は大変好ましく、ご担当者の皆様の努力に感謝いたします。内訳としてリピーターなのか、新規なのか。ファンは大切ですが、機会の提供拡大も同様に行う策が必要と考えます。

《その他・感想》

猿島公園専門ガイド（43頁）…観光客として参加をしてみました。とても高レベルな知識、お人柄も良い方々で満足です。ただ、民間のボラ（有料）もあり、外部の訪問者には違い（コース、料金、質など）がわかりにくかったです。どのようになっているのでしょうか。

委員：横須賀市と市民の一体化で、横須賀市の文化振興が進められるよう希望しております。フランスとの交流関係が一層発展することを願っております。フランスの新大使が横須賀を訪問されたことは、フランスが着任してすぐ横須賀を重要視していることをよく表しております。

委員：63頁、65頁、維持になっていますが、美術館における障害者や高齢者対象事業は大変重要であると考えます。また、子ども対象の美術館ワークショップ、芸術館（芸術劇場）における少年少女合唱団の育成は、次世代育成を考えると大変重要です。

委員：以前から申し上げていることですが、Ⅱ2（1）（2）の「身近な歴史」の部門が弱体で、例えばⅢ3（1）の「里山」のような活性化を期待します。他でよくある例ですが、古くからの住民の方にかがって、町並み復元地図を作るとか、手持ちの古い写真を提供していただくとか（写真展、写真集刊行など）だと、興味を持たれる方も多いと思います。あと、この後の令和2年4月からは、いよいよコロナの影響が本格化してくると思いますが、2年位続くとしたら、復旧と従前通りを期待するのではなく、企画自体の見直し、新企画にも取り組む必要があると思います。

委員：ありません。

委員：評価結果（2頁）にあるS～Cの数字と、進行管理表（15頁～60頁）に示される評価の数が合わないと思われませんが、いかがでしょうか。管理表でのAを合計しますと100以上あるようです。Bは2、Cは0で、2頁の表にある数字と異なります。

ご参考：38頁、文化財講座の開催は、中止であるにもかかわらずAとなっている。Bは1件しかないことになっているが、「うみかぜの路景観重要道路」に係る事業等にたいする景観誘導の実施（49頁）と三浦半島サミットの開催（53頁）2つがあります。

委員：多岐にわたって各部署がしっかり取り組まれていると思います。気づいた点として以下に記します。

- ① 旧軍4港が日本遺産に指定され、それに関連するプロジェクトが全くありません。行っているのであれば、Ⅱ-1やⅢ-

3、4 関連で記載すべきではないでしょうか。

- ② 「ルートミュージアム」関係は重要プロジェクトです。もっと市民にPRしてください。
- ③ II-3 (景観) に関して受身ですが、景観を保全し創るなど、もっと積極的な取組はないのでしょうか。例えば、「ブラフ積み」擁壁景観の保全です。

委員 : 評価の区分について、S. A. B. Cとありますが、94%のA評価ですが、評価方法等を考えてみても良いのではないのでしょうか。方向性の2種のみとあわせて、向上・維持の具体的な内容が伝えられるようにお考えいただきたいです。

以上